



Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター

フィンランドセンター
年次報告
2019





Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター



所長からのご挨拶

日本とフィンランドの外交樹立記念
を祝い、学術・文化・高等教育分野
での新たな協力関係へ

2019年は、日本とフィンランドの外交樹立100周年を迎え、フィンランドセンターでも様々なイベントが行われました。2018年より記念すべき年が続き、当センター設立記念を迎えた同年はNewOpeningsをテーマに、フィンランドセンターの注力分野(学術、文化、高等教育)において新たなトピックや視点で活動を強化、発展させてきました。今年も、総参加者数の面でも記録更新の年となり、当センターの様々なイベントに多くの方々にお楽しみいただきました。企画の中には、当センター主催の円卓議論で参加者の方々から生まれた新しい企画案を含みました。

学術の領域では、学際的アプローチが中心となり、10月にはAIST(産業技術総合研究所)と共に人工知能(AI)をテーマにコンファレンス「AIがかける架ける橋、ボーダーを超えて」を開催しました。コンファレンスでは、日本とフィンランドから有名な研究者の方々をお招きし、例えば、将来の社会やヘルスケア分野においてAIが果たす役割、AIを取り巻く課題のほか、AIとロボット技術に関して等議論をしました。また、2回目の開催となったトーヴェ・ヤンソンに関するコンファレンス「トーヴェ・ヤンソンと日本の影響力」では、社会学や芸術学、美術史、心理学や統計学といった学際的な内容となりました。その他にもフィンランドセンターが主催した高齢化社会セミナーでは高齢化社会の文脈におけるウェルビーイングについてフォーカスを当てました。

また、文化の領域での大きな出資としては、5月14日にTeam Finlandの一員としてフィンランドセンターも参画し、初めて大使館の門戸を一般の方々に開放したFeel Finlandのイベントです。参加者は、編み物やヒンメリ、ポピンレース編みのワークショップを体験したり、カンテレの音色に耳を傾けたり、エアギターの演奏、アーティストトーク、フィンランドの物販のほか、フィンランド人シェフによるフィンランドの自然の恵みに舌鼓を打ちました。合計1,200人の参加者がこの催しに参加しました。

そして、高等教育の領域における主な活動は海外留学フェアへの参加、Roadshowと題した日本の大学への訪問、そしてコミュニケーションの強化でした。これらにより、フィンランドの教育制度に関心を寄せる日本の皆様の疑問に答え、フィンランドの大学・高等教育機関に関する可視性を改善してきました。高等教育分野の強化につき、フィンランドセンターでは日本人の学術コーディネーターを採用しました。

フィンランドセンターでは毎年イベントプログラムやセミナーの計画を更新しています。当センターが高い目標を掲げながら様々なプロジェクトを遂行できているのもひとえにパートナー、サポーターの皆様のお力添えのおかげです。かけがえのないご支援を糧に共に、勇気を持って、皆様のお声に耳を傾けながら今後とも活動に邁進する所存です。

フィンランドセンター所長
アンナ=マリア・ウィルヤネン



写真:

表紙、P.2-20
©フィンランドセンター



レイアウト:

ラウリ・セロネン
(2020年EDUFI研修生)



芬日翻訳:

原あかり

目次

所長からのご挨拶	3
数字で見るフィンランドセンター	6
コミュニケーション	7
ウェルビーイングが多様な学術プログラムの中核を成す	8-9
至極の研究と講義の年	10-11
日本で伝えるフィンランド文化	13-14
交流	15
オンペルセウラ	16
スウェーデン系フィンランド人文化ウィーク	17
高等教育分野における協力	18-19
フィンランドセンター職員紹介	20
謝辞	21

数字で見る フィンランドセンター

学術イベント数

57

文化イベント数

41

アーティスト
インレジデンス数

7

2019年総動員数

264 162



SNSフォロワー数

Facebook

4336

Instagram

2221

Twitter

1325

フォロワー増加率
(前年比)

205%



ウェルビーイングが多様な学術 プログラムの中核を成す

AI、女性のエンパワーメント、高齢化
社会、そして日芬関係の歴史が学術
プログラムの中心に

フィンランドセンターは、学術分野内において、当センターの戦略に沿ったトピック(ウェルビーイング、女性のエンパワーメント、高齢化社会)に関して社会、環境そして文化の変化に即した国際的なコンファレンスとセミナーを行いました。フィンランドセンターでは、現代のトピックに関する講義のほか、独自の研究を実施し、報告書を作成、学術会議やセミナーに参加し、専門家の見地から学術に関する様々な疑問にお答えしながらレクチャーも行ってきました。

この年、フィンランドセンターでは、とりわけ女性の社会的地位の向上、AIの多様な応用、高齢化社会そして日本とフィンランドの関係における研究に焦点を当てました。3月には女性のエンパワーメントセミナーを開催し、講演者としてエーリン・フリーゲンリング駐日アイスランド大使、坂東真理子 昭和女子大学理事、起業家の迫村裕子をお招きしました。当センター所長のアンナ=マリア・ウィルヤネンがモデレーターを務め、日本における女性の社会的地位の向上に向けた方策について議論しました。また同所長は、昭和女子大学の女性のエンパワーメントセミナーの講演者として招待を受けました。他の登壇者は、メアリー・プリントン(ハーバード大学)、武川恵子(昭和女子大学)、ダグラス・ハイマス(ニューヨークメロン銀行)でした。セミナーには1,850名が参加し、日本のメディアでも取り上げられました。

「AIがかける架ける橋、
ボーダーを超えて」
2019年10月10日

フィンランドセンターは2018年に引き続き、2019年10月にAIをテーマとしたコンファレンス「AIがかける架ける橋、ボーダーを超えて」をAIST(産業技術総合研究所)と共催しました。コンファレンスの基調講演者として、辻井潤一教授(人工知能研究センター: AIRC、AIST)、フィンランド労働衛生研究所のティモ・レイノ教授、そしてVTT(フィンランド技術研究所)のナデジダ・ゴチェヴァ上級研究者が登壇しました。また、コンファレンスでは日本、フィンランドそしてドイツの研究者が参加しました。

学際的なアプローチで行われたコンファレンス「トーヴェ・ヤンソンと日本の影響力」は今回で2回目の開催となりました。2日間の会期となった今年も好評で、たくさんの方々にご参加いただきました。コンファレンスの参加者は日本、フィンランド、スウェーデンの研究者を含み、基調講演者としてストックホルム大学のボイル・ウェスティン名誉教授、ヘルシンキ大学のシルケ・ハッポネン助教授が登壇しました。●

至極の研究と講義の年

女性のエンパワーメントや日芬関係史における講義・研究

フィンランドセンターは、2018年に始動した日本初の駐日フィンランド大使であるグスタフ・ヨン・ラムステット(1873年～1950年)に関する研究プロジェクトを継続して行いました。研究の目的は、ラムステットの日本におけるネットワークを調査・分析することで、そのネットワークがどのように日本・フィンランドの外交関係に影響を与えたのか明らかにすることです。調査データ・結果は、一般公開を目的としており時間を要するものとなっています。当プロジェクトは、2021年末まで継続して行われます。

当研究プロジェクトに関連してフィンランドセンターでは、ニクラス・クルストロム、マルティ・カールティネン監督の映画「東方の記憶」の日本における上映を支援しました。映画は、グスタフ・ラムステットの中央アジアから日本への足跡を辿るものでした。当センター所長は映画上映前に各種講義を横浜国立大学、慶應義塾大学、東海大学、東京外国語大学、香川大学、東京のユーススペースにて行いました。

女性のエンパワーメントに関するフィンランドセンターのセミナーは、研究のキックオフともなりました。フィンランドセンター所長の研究プロジェクトでもある様々な年代の日本人女性の社会的地位を調査し、フィンランドにおけるベストプラク

ティスを活用して状況を改善するための方策を提案します。研究プロジェクトは来年も継続し、日本向けの出版物も作成される予定です。

高齢化に関する研究プロジェクトでは日本・フィンランドにおける高齢化の比較研究を行い、2018年より研修生が担当するプロジェクトとなっています。今年は研修生が高齢化に関する日本語でのセミナーを開催し、盛況となりました。

フィンランドセンターの専門家としての長期的な取り組みが実を結び、講義の依頼件数や照会件数も大幅に増えてきています。例えば、当センター所長は年間計25件3,131人を前に講義を行いました。●

女性の
エンパワーメント
セミナー
2019年3月12日





日本で伝えるフィンランド文化

フィンランドセンターは、2019年に41の文化イベントを企画・共催・後援しました。

また、月1回のオンペルセウラやスウェーデン系フィンランド人文化ウィークの開催のほか、レジデンスプログラム、TelepARTによるアーティストの交流を支援しました。

イベント

フィンランドセンターは東京にてカトリーナ・ハイカラのソーシャルポートレートパフォーマンスと展示、Almost Perfectにおけるレジデンス参加者のカティ・イッモネン、画家のカロリン・ピッピン、2018年バイオアート・サイエンスレジデンス参加者のクリスティーナ・シュタットルバウアー、画家のマリア・ウォルフラムの個展を開催し、ウォルフラムは、フィンランド代表としてWorld Art Tokyoにも出展しました。また、フィンランドセンターでは2020年にかけてフィンランドの暮らしと文化をテーマとする展覧会を開催しました。

また、ビジュアルアーティストのマリア・リウリア、写真家アンヌ・アアルト、アーティストのヘレナ・カッコネンの東京での個展開催を支援し、写真家の千葉直子がラップランドで撮影した写真の展覧会を岩手県で開催する支援や写真家安藤悠

とエミリア・タンネルの鳥取県での展覧会開催支援を行いました。

フィンランドセンターは、東京・国立西洋美術館にてアテネウム美術館所蔵コレクションのモダン・ウーマン展のほか、フィンランド人ビジュアルアーティストのアンナ＝マリヤ・マッティラ＝セリン、ヤーナ・キルヨネンが参加した京都芸術祭を支援しました。日本巡回展については、石本藤雄の個展を東京にて開催したほか、Power of Ceramics/Marimekko Spirit展として2019年に岐阜県、山口県萩市、大阪府を巡回しました。ルート・ブリュック展は東京都、大阪府伊丹市、Aino & Alvar Aalto Shared Visions展は2019年12月に東京より巡回展が始まりました。

フィンランドにおいて、フィンランドセンターはデザイン博物館の展示「Company ー世界の秘密」に参画し、Japan Dayにも参加しました。当センターはまた、フィンランド・アラヤルビで行われた日本美術の国際展「Wa」のほか、ロヴァニエミにおけるValo-Hikari展の開催を支援しました。

当センターは、展覧会とレジデンス滞在と共にパネルディスカッションやアーティストトークを行いました。当センター所長が東京にてカイ・フランクに関するシンポジウムや欧州文化のサポート活動を紹介する「Espace de réflexion」の発表のほか、当センタープロジェクトマネージャーがヘルシンキにて行われたHabitateにて講演を行いました。そして、Habitateと共催で東京にて2020年に行われる「Wild at Heart」展の説明会を行いました。



舞台芸術については、TelepARTの支援により、サーカスアーティストのイローナ・ヤンッティと共に現代サーカスプロジェクトを実施し、日本人サーカスアーティスト向けのワークショップを東京と香川県高松市で行いました。参加者の中から1名が選出され、フィンランドにてヤンッティと共同トレーニングを実施しました。プロジェクトの集大成として、ヤンッティと日本人サーカスアーティストの吉田亜希が他の日本人サーカスアーティストと共に福岡県において共同公演を行いました。フィンランドセンターは、テロ・サーリネンが振付を担当したVortexの日本初公演をサポートしました。TelepARTの音楽部門では、フィンランドのタンゴ・クラシックコンサートやTrio Archipelagoの日本ツアーを支援しました。

フィンランドセンターは、東京で開催されたフィンランド映画祭

とフィンランドのラハティで行われたポエトリーマラソンの日本週間にも参画しました。フィンランド代表として作家ミア・カンキマキを東京でのEU文芸フェスティバルに招聘し、注目を集めたことで日本での出版権を得ました。

また、当センターは、Team Finlandの一員として、フィンランドの体験デー「Feel Finland」を開催し、日本とフィンランドの外交関係樹立100周年を祝いました。同イベントは、東京のフィンランド大使館初の一般公開日となりました。敷地内の中庭では、ライブ演奏があり、民俗音楽からポップミュージック、トークにアーティストへのインタビュー、そしてモダン・伝統ダンスを行いました。また、編み物やヒンメリ、ポピンレース編み、フィンランドの食文化体験もあり、フィンランドの伝統ダンスであるレトゥカイエンカで幕を閉じました。●

交流

レジデンス

フィンランドセンターは2019年に7つのレジデンス滞在に関わり、10名のアーティストが参加しました。レジデンスプログラムは、東京の遊工房アールスペースと共に継続して取り組み、フィンランドの作家協会と共に春に東京にてレジデンスを行い、パイヴィ・クッカリラとマリアンネ・バックレン、そして漫画家のイルキ・ヘイッキネンが参加しました。

Y-AIRレジデンスプログラムにおいて、写真家ラウラ・タハヴァナインが長野県東御市に9～10月にかけて滞在し、滞在の集大成として天空の芸術祭において木版画が展示されました。また、Bio Art & Scienceのレジデンス滞在をフィンランドのバイオアート協会およびBioClub Tokyoと共同で行い、エミリア・ティッカが参加しました。滋賀県立陶芸の森で行われた恒例の陶芸レジデンスでは、10月～11月に陶芸家のエリン・トゥルコグルが参加しました。新しいレジデンスとしてフィンランドセンターは、Almost PerfectとHiSOMとのコラボレーションを開始しました。東京のAlmost Perfectでの最初のレジデンス滞在アーティストは、2月に滞在した写真家のカティ・イッモネンでした。また、HiSOMでのレジデンスは、鳥根県にて3月から12月にかけて開催され、4週間にわたりマスターシェフのマルクス・アレモとアーティストのアンナ＝カイサ・ハーナホが参加しました。

また、フィンランドセンターでは、遊工房アールスペースとフィンランドの芸術家協会とアトリエ基金が助成し、レジデンス交流を行い、写真家の河合智子がタピオラのゲスト用アトリエに滞在しました。



TelepART

フィンランドセンターでは、2019年に8件のTelepARTプロジェクトを実施しました。サポートしたアーティストは41名に及び、うち34名が日本国内18箇所で実施し、7名がフィンランド国内5箇所で活動を行いました。公演のうち6件が音楽、1件が演劇、そして1件パフォーマンス芸術の分野でした。公演の総来場者数は、1,820名でした。

サクソ奏者のペッカ・ピュルッカネンは、日本ツアーを2回行い、13都市20公演を巡回しました。ポップアーティストのGEAは、大阪と東京にて4公演を行い、ラウリ・ヒュヴァリネンのトリオが7都市8公演を行いました。人形劇作家グループのルーヴィウルは鳥根県で行われた鳥の演劇祭で『全世界を見たいと夢見た男』を演じました。

フィンランドと日本のカンテレ・琴ドゥオであるアルクラと中井は、夏のフィンランドツアーとして3都市で公演し、N Crafts ブラスクインテットがリエクサで行われたプラス週間に登場しました。また、メディアアーティストのヒエイはトゥルクの日本フィンランド芸術祭でワークショップとパフォーマンスを行いました。●



オンペルセウラ / 編み物クラブ

フィンランドセンター主催オンペルセウラ(編み物クラブ)は好評につき継続して行いました。オンペルセウラはほぼ毎月、年間計11回開催し、444名が編み物を楽しみました。毎回、フィンランドの著名な女性やフィンランドの文化に関する紹介をし、コーヒーやフィンランドの伝統菓子を片手におしゃべりをしています。

オンペルセウラで使用する毛糸や編み棒、作図パターンはすべて、フィンランドのノヴィタ社よりスポンサー提供いただいています。●



スウェーデン系フィンランド人文化ウィーク「Hallå Tokyo!」

本年で3回目となる5日間のHallå Tokyo!は、Creators & Creationsをテーマに開催しました。作家、ジャーナリストそしてTVパーソナリティでもあるマーク・レヴェングッドの講演で始まり、スウェーデン系フィンランド人としてスウェーデンに住む彼の人生や仕事、アイデンティティについて語りました。また、フィンランドのポホヤンマー地方出身のフォーモルグループン・カイが日本初公演を行いました。

スウェーデン系フィンランド人文化ウィークでは、昨今のトピックに関するディスカッションが行われ、グリーンライフスタイルに関するセミナーではSocial Innovation Japanのマリコ・マクティア、ゼロ・ウェイストジャパンの野村蘭、そしてスウェーデン系フィンランド人のブロガー、ユリア・デーガスが登場したほか、デザイナーのカロリーナ・フロスと富永航が講演を行いました。スウェーデン系フィンランド人ウィークは、ザリガニパーティーで盛り上がりが高潮に達し、フィンランド産ザリガニをスウェーデン系フィンランド人の伝統的な方法で堪能しました。●

高等教育分野における協力

日本の大学をはじめとする高等教育機関との連携は、フィンランドセンターの主要な柱の一つであり、この1年間でさらに注力して参りました。

海外留学フェア

フィンランドセンターは、日本における主要な海外留学フェアである欧州留学フェア及び日本学生支援機構主催「海外留学フェア」に毎年出展しています。

欧州留学フェアは、駐日欧州連合代表部の主催で2019年5月18日に大阪にて、同19日に東京にて開催されました。フィンランドセンター出展ブースに大阪では47名、東京では同日に行われたフィンランド留学セミナーを合わせると129名の方々にお立ち寄りいただきました。また、海外留学フェア(2019年6月29日於:東京)では、フィンランドの高等教育制度や出願方法等の実務的な情報を提供し、87名がフィンランドセンターのブースに立ち寄りました。

フェア開催中、フィンランドブースに立ち寄られた方々の最も関心のある分野は、社会科学、教育、IT、デザイン&アートそしてビジネスでした。また、訪問者の43%が現役大学生・大学院生、31%が社会人、26%が高校生以下でした。

ロードショー

フィンランドセンターは、日本の大学訪問を「ロードショー」と題して2018年より実施しています。大学のコンタクトパーソンと面会し、将来のコラボレーションについて議論をしています。2019年のロードショーは主に首都圏を中心に巡回し、東京藝術大学や上智大学、法政大学等を訪問しました。本活動により、法政大学にてヨーロッパ文芸フェスティバルの開催(9月28日)、立教大学にてスウェーデン大使館との合同で北欧留学セミナーを実施(12月5日)したり、新たなコラボレーションが生まれています。また大学訪問を通じ、交換協定締結を見据えたフィンランドにおけるカウンターパート発掘など日本の大学におけるフィンランド高等教育機関との連携への可能性も見られました。

広報活動及びネットワーク

フィンランド留学への関心は年々高まりを見せています。フィンランドセンターでは、フィンランド留学に関する様々な情報を広く共有するため、当センターSNSやウェブサイトのほか、紙媒体など多様な方法で情報提供しています。

高等教育分野事業を強化するため、2019年4月にアカデミックリサーチ・コーディネーターとして原あかりを採用しました。また、フィンランドセンターではチームフィンランドとして連携し、2019年6月7日に東京・フィンランド大使館にて同窓会ネットワークのイベントにも参画しました。●





フィンランドセンター職員紹介

所長

アンナ＝マリア・ウィルヤネン

文化プロジェクトマネージャー

パン・ヤルヴィネン

学術コーディネーター

原あかり (2019年4月8日着任)

オフィスマネージャー

茂田里加 (2019年3月29日退職)

岡本留実 (2019年5月20日着任)

研修生

エリナ・スオミネン

ノーラ・エルヴェリウス

エラ・ルンドクヴィスト

謝辞

フィンランドセンターは、以下の団体・個人の皆様にご支援・ご協力をいただいています。

Opetus- ja kulttuuriministeriö



Embassy of Finland
Tokyo



BUSINESS
FINLAND

fccj

NOVITA

フィンランドセンター財団

フィンランドセンター財団は、1998年に設立した非営利団体のフィンランドの財団です。ミッションは、憲章に則りフィンランド文化、学術、高等教育、技術と経済に関する理解を深め、これらの分野における日本とフィンランドの協力を促進することです。フィンランドセンターは、とりわけ学術、文化そして高等教育分野における発展や協力のニーズを認識・予想し、潜在的な協体制構築に向けて支援します。フィンランドセンター財団は東京にあるフィンランドセンターを管理しています。

2019年のフィンランドセンター（日本）の理事会員は以下の通りです。

スサンナ・ベッテルソン (理事長)
ビルヨ・ヒーデンマー (副理事長)
アンティ・アハラヴァ
マルック・キヴィコススキ
ニクラス・サンドラー
ヨルマ・マッティネン

フィンランドセンター財団では、ティエーア・サーリネンが財団委員長を務めました。

フィンランドセンター代表団

代表団には、33の会員がいます。ヨルマ・マッティネンが議長を務めており、以下の高等教育機関や学術・研究機関、産業界、企業を代表しています。

Aalto-yliopisto
Helsingin yliopisto
Itä-Suomen yliopisto
Jyväskylän yliopisto
Lapin yliopisto
LUT-yliopisto
Oulun yliopisto
Svenska handelshögskolan
Taideyliopisto
Tampereen yliopisto
Turun yliopisto
Vaasan yliopisto
Åbo akademi
Suomen akatemia
Helsingin kaupunki
Business Finland
Elinkeinoelämän keskusliitto
Tieteellisten seurain valtuuskunta

VTT
Kemira Chemicals Oy
Nokia Oyj
Outokumpu Oyj
Tallink Silja Oy
Designmuseum
Suomen Arkkitehtiliitto
Finlands Arkitektförbund ry SAFA
Suomen Kirjailijaliitto ry
Suomen Kulttuurirahasto
Taiteen Edistämiskeskus
Japan Finland Society
Suomalais-Japanilainen Yhdistys ry



Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター

フィンランドセンター

〒106-8561

東京都港区南麻布3-5-39

メール: info@finstitute.jp

電話: +81 (0)3 5447 6037